

渋谷区立広尾中学校 令和2年度 学校経営方針

【教育目標】

校長 山本 茂浩

将来の変化を予測することが困難な時代に、自らの人生を切り拓き、生涯を生き抜く力を子供たちに培っていくことが求められていることを踏まえ、以下の教育目標を定める。

- ◇自らの頭で考える生徒の育成
- ◇自分の人生をデザインできる生徒の育成
- ◇変革やチャレンジをし続ける生徒の育成

【目指す姿】

〔学校像〕 信頼と誇りに基づいた、活力と落ち着きのある学校

- ◇区民に信頼される学校
- ◇区民と共にある学校
- ◇生徒たちが誇れる学校

〔生徒像〕 自信とやる気を持ち、知・徳・体をバランスよく備えた生徒

- ◇思いやりを持ち、認め合うことのできる生徒の育成
- ◇互いに学び合い、深く考える生徒の育成
- ◇朗らかで、心身ともに健康な生徒の育成

〔教職員像〕 授業力・指導力、情熱・使命感、実行力のある教員
専門性が高く、迅速に行動する職員

- ◇生徒の笑顔を第一に考える
 - ・・・ 子供が充実感、達成感を得られるよう最大の努力をする。
 - ※その行動は、生徒の気持ちになって考えただろうか
- ◇いつでも“笑顔”を忘れない
 - ・・・ 私たちの“笑顔”が、生徒たちの“笑顔”をつくる。
 - ※その行動は、生徒の最高の笑顔を引き出せるだろうか
- ◇感謝の気持ちを常にもつ
 - ・・・ 感謝の心が自分を謙虚にする。
 - ※その行動は、周囲の人に感謝の気持ちが伝わるだろうか
- ◇常に改善・向上を目指す
 - ・・・ 現状に満足せず「どうすればできるか」を考え、実際に行動する。
 - ※その行動は、可能性に挑戦し、「どうすればできるか」と前向きに考えただろうか？
- ◇法令を順守し、正直で誠実な行動をする
 - ・・・ 日々の行動が学校の信頼を高めることを自覚する。
 - ※その行動は、法律や道徳に違反していないだろうか？生徒たちに見せられるだろうか？

【経営の重点】

将来の変化を予測することが困難な時代に、自らの人生を切り拓き、生涯を生き抜く力を子供たちに培っていくことが求められていることを踏まえ、以下の教育目標を定める。

- ◇自らの頭で考える生徒の育成
- ◇自分の人生をデザインできる生徒の育成
- ◇変革やチャレンジをし続ける生徒の育成

「世界へ羽ばたく人材の育成」をスローガンに、「地域の核として、PTA及び町会とともに、地域に貢献できる人材の育成」に重点を置き、教育活動を行うとともに、コミュニティ・スクールとして、地域と連携して学校経営を行うとともに、今後の広尾中学校の10年の方向性を定めていく。

<広尾中学校の教育課程>

地域コミュニティの核として、生徒一人一人の「生きる力」の育成に対し、全力で取り組む。未来に生きる個人として必要な資質・能力をはぐくむために、「中高連携教育校」及び「オリンピック・パラリンピックアワード校」としての特色ある教育活動や氷川地区及び新橋地区の教育資源を十分に活用する。

ア 『社会に開かれた教育課程』と『カリキュラムマネジメント』

人間がもつ多様性を理解し、人種、性別、年齢、障害の有無などにより他人を差別することのない生徒を育成するために、地域社会の一員としての自覚を促す教育課程を編成する。

イ 『学力向上』と『個性の伸長』

基礎・基本となる知識・技能の定着を図り、それらを応用する力、活用する力を育む。日本人としてのアイデンティティを育み、グローバル社会を生き抜くための基盤となる力の育成に努める。

ウ 『信頼される学校づくり』

コミュニティ・スクールとして、生徒の健全育成を図るとともに、地域に貢献する生徒を育成する。

<学校が行う教育活動の重点を示す3つの言葉>

端的に広尾中学校の教育活動を整理し、教育の内容と質を高めていくための考え方を示すために、

「心と体を鍛える」、「学びを究める」、「人、地域にかかわる」

以上の3つのキーワードを用いる。新たな教育目標を実現するために、必要な基本的な教育活動のコンセプトを示すものとなる。

<心と体を鍛える>

生徒の心と体を鍛えるべく、様々な教育活動を計画する。特に生徒会の活性化は必須であり、年間行事予定表もその点を踏まえて計画してもらっている。各委員会等の指導を、意図的・計画的に取り組むよう、見直しをもつことが肝要である。

はとふる活動は、教育相談担当を中心に計画してもらうが、生徒との話の内容は、各教員一人一人に任されている。単発な関わりではなくそのことをきっかけとして、継続的に応援している印象を残すように事あるごとに声かけをするよう望む。

◆はとふる ➡ 「ヒーロー&ヒロイン」を中心に維持・継続

◇学校と家庭の連携推進事業 ➡ 青山学院大学との連携

◆キャリア教育 ➡ 広尾高校との連携

➡ 職場体験を中心とした取組

➡ キャリアガイダンス、コミュニケーションゲーム、職場体験にかかる事前学習等 これらが一体となるようキーパーソン21と調整する。

(職場体験先として、一般企業を充実させる)

➡ 職場体験学習ノートは、オリジナルのノートを使用する。

◆国際理解教育 ➡ 國學院大學国際交流課との連携

◆広尾大作戦

◆はとふる活動

◆人権講演会・作文

◆キャリア教育

◆国際理解教育

◆障害者理解教育

◆体力向上

- ➡ 留学生との交流の日程を調整し、それまでの事前学習をどのように組むかが成否の鍵となる。また、留学生との双方向のコミュニケーションとなることを今年度の大きな目標とする。
- ◆障害者理解教育 ➡ 日赤看護大学との連携による「障害者理解教育」を11月に計画する。
障害者理解教育の際には日赤総合福祉センターでの学習を組み合わせる。
 - ➡ 事前学習については、NHKの福祉ライブラリーを活用しDVDの視聴等を行う。また、学習のまとめについて、工夫をすることが求められる。
- ◆体力向上 ➡ 保健体育、部活動、朝ランニング等により取り組む。
 - ◇体育活動の充実
 - 運動会 ➡ 昨年度と同様にマスゲーム等見せる競技を実施する！
 - 区陸上競技大会、しぶやニュー駅伝、朝のランニング、運動部活動等
 - ◇健康教育の充実
 - 保健室の機能充実、薬物乱用防止教室、家庭との連携、学校保健委員会
 - ◇食育の推進
 - 安全で美味しい給食、ランチルームの活用、交流給食、家庭との連携等

＜学びを究める＞

「わかる授業の保障」は、保護者・生徒共に最も求めていることである。今年度のパソコンの入れ替えを機に、「ICTの活用（タブレット端末）」について教員一人一人が研修を推進していく。

- ・インターネットの機能を活用して、調べる道具として
- ・教員が準備した資料を提示する道具として
- ・生徒が発表する道具として
- ・生徒が自学・自習する道具として
- ・生徒の活動を記録し、再生する道具として

などシンプルに利用できる機能がたくさんあるので、長けた者に支援をもらいながら、それぞれ検討する。

生徒の優れたノートを掲示する取組を継続するとともに一層「教科ノート指導の充実」を図る。

- ◆「表現する活動の充実（話す、書く）」を維持・継続する。
 - ➡ ブックトーク指導、レポート&ノート指導、新聞指導
- ◆「英語検定・漢字検定・数学検定チャレンジ」を継続する。
 - ➡ 3年間で資格を取得するよう、生徒や保護者に呼びかけるとともに、実施時期を早めに調整し、勉強会を行うなど受験しやすい環境を整える。
 - ➡ 1年生の時から少しずつ受検をするような体制を築く！
- ◆学んだことが将来の学びや研究、社会とつながっていくよう「学びの深化」を図る。
 - ➡ 大学との連携による授業
 - ➡ 企業との連携による授業

◆わかる授業の保障

- ◆表現する活動の充実（話す、書く）
- ◆英検・漢検・数検チャレンジ
- ◆学びの深化
- ◆タブレットでの朝学習（広尾タイム）

＜人、地域にかかわる＞

生徒が社会に貢献できる人材へと成長するために、地域の活動を良く知り、地域の方と交流する機会を積極的に設ける。

氷川クリーン作戦、氷川地区運動会、新橋地区運動会、新橋こども広場、氷川ちゃんこ鍋の会、ブラインドサッカー関東リーグ他、部活動での社会貢献等を行う。

「國學院大学の留学生との交流」「高校生との交流（中高連携）」をこれまでどおり実施し、「小学生との交流（生徒会）」の充実に取り組む。生徒会本部を中心に、各小学校で広尾中学校について紹介する取組を行う。

氷川地区と共に、総合防災訓練を実施する。

- ◆地域でのボランティア活動
- ◆國學院大学の留学生との交流
- ◆高校生との交流（中高連携）
- ◆小学生との交流（生徒会）
- ◆防災教育の充実

<令和2年度の重要課題>

生活指導上の課題は、減少してきた。今後も教員一人一人が、生徒の問題行動を見逃さず、現場において必ず指導することを心掛ける。その上に立ち、情報の共有と連絡・相談体制を組織として構築し、対処療法にならない生徒指導を目指す。何よりも大切なことは、初期対応である。

- ◆特別な配慮の必要な生徒の対応⇒特別支援教育のさらなる充実
- ◆不登校生徒の対応⇒情報の共有と対応策の検討（児童・生徒を支援するためのガイドブックの活用）
- ◆運動会のプログラムの充実⇒全校マスゲーム4年目としての取組及び発展

【学力向上】

「生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力、その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない」（学校教育法 義務教育の目標より）に基づき、全生徒の学力向上を目指す。特に、すぐに正解か不正解か判断できる知識や技能等以上に、多様な解答がある課題に対する学力の育成について学校全体で取り組む。

◇授業の充実

授業規律（「授業五訓」）の徹底、基礎・基本の徹底、授業充実プランの実践、指導方法の工夫改善、教材の開発及び精選、ICTを活用した授業のさらなる推進
ノート指導の充実（優秀なノートを掲示し、具体的な目標をもたせる）

◇妥当性・信頼性の高い評価方法の確立

これまで、教員各人が行ってきた評価方法について再度検証し、より妥当性・信頼性の高い評価を行い、指導の充実や生徒の学習意欲に結び付くよう研修を行う。

⇒ 保護者・生徒向けの説明用資料を作成する。

◇各種検定の開催・推奨

漢字検定、英語検定、数学検定を3年間で取得するよう生徒に目標をもたせ、取り組んでいく。

⇒ 1年生の時から少しずつ受検をするような体制を築く！

◇個に応じた指導

少人数指導、習熟度別指導、補充学習、「まなび〜」

◇授業改善 ⇒ 新学習指導要領全面実施に向けた授業改善

自ら学び考える力や互いに学び合う力、思考力・表現力・創造力の育成を図る授業、言語活動や発表活動の充実

タブレット端末を活用した授業の構築

◇学習意欲の喚起と家庭学習習慣の定着

学習意欲を高める評価・評定、評価の目安を示す『学びのススメ』の活用、
家庭学習の奨励・充実 ⇒ スタディサブリの有効活用

【オリンピック・パラリンピック教育の継続推進】

東京都の公立学校すべてが“オリンピック・パラリンピック教育推進校”である。

「世界ともだちプロジェクト」として、5大陸の国々（5か国）について調べるなどの活動及びその発展としての交流が課せられる。

また、都の「夢・未来プロジェクト」の“「welcome」プログラム”により、外国人アスリートの来校及び交流を計画する。

【都市型中高連携校及び近隣大学との連携】

◆都市型中高連携校としての特色ある教育の推進・充実

◇中高連携教育の改善と充実

「充実・発展期」改善・充実への取組

◇中高交流の実施

中高連携交流会、交流授業、総合学習発表会、生徒同士の交流活動等

部活動交流 ⇒ バドミントン部 + 卓球部を狙っていく！

◇中高連携入学者選抜への対応

計画的・組織的な対応、生徒・保護者への周知、広尾高校入学者への事後指導等

◆近隣大学との連携（國學院大学、聖心女子大学、青山学院大学、日本赤十字看護大学）

- ◇留学生との交流
異文化理解、多様な価値の理解
- ◇アカデミックな授業の体験
大学教授等による授業や講演会の企画
- ◇「まなび〜」の運営 & SAMの確保
大学生を中心に個別の学習を展開、部活動、行事のサポート
- ◇「学校と家庭の連携事業」における連携（現段階では、通知なし）
大学教授をスーパーバイザーに迎え、学部生および院生に支援員として協力いただく

【キャリア教育・進路指導】

- ◆都立広尾高校及び近隣大学との連携等を通じて、生徒が将来に向けて、希望をもち自己実現を図っていく基盤を育てる。

【課題】 “学校では進路指導がきちんと行われていますか” との問いに保護者の評価が低い

【要因】 “進路指導” という言葉のイメージが “進学指導” になっている。

“キャリア教育” のイメージを保護者がもっていない。

【改善】 ▶キャリア教育で培う能力を前面に押し出す。

「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」
「キャリアプランニング能力」

- ・1～2年生でも、進学に関する情報を三者面談で取り扱う。
 - ・2年生の夏休みの宿題に、高等学校のオープンキャンパスのレポートを課す。
- ▶キャリア教育の3年間の指導計画を立てる。

◇特別活動の充実

学級活動、生徒会活動、部活動、ボランティア活動等を通じて、

◇3年間を見通した進路指導 ➡ キャリア教育の3年間の指導計画を示す！

自分を知る、職業を知る、上級学校を知る

◇3日間の職場体験学習（中学2年生）

【健全育成】

◆思いやりのある豊かな心をもつ生徒の育成

◇生徒の内面に響く指導の徹底

生徒の話聞く・諭す・導く・認める指導

◇自他の生命を大切に作る指導の徹底

いじめを絶対に許さない！学級でのよりよい人間関係づくり等

◇道徳指導の充実

道徳的実践力を高める道徳指導、生徒の心に響く教材の開発及び評価の検討

◇読書教育の充実

朝読書の充実、「しぶやおすすめの本50」の紹介及び活用を全学年で実施、
渋谷図書館との連携、しぶやおすすめの本50読書コンクールへの参加等

◆心身共に健やかでたくましい生徒の育成

◇基本的生活習慣の確立

あいさつ、礼儀、服装、時間を守る、等の指導の徹底

◇教育相談活動の充実

スクールカウンセラー（SC）の活用、はーとふる活動（はーとふるウィーク等）、

➡冬の「はーとふるウィーク」は、3年生の受験日程で1・2年生のみ実施

不登校生徒への対応、カウンセラー連絡会、保護者や関係諸機関との連携等

◇「学校と家庭の連携推進事業」の継続実施（東京都教育委員会事業）

【広尾中学校を開く】

◆保護者・地域に開かれた学校づくり

◇学校運営協議会の開催

地域（氷川&新橋）、保護者、学識経験者、校長からなる学校運営協議会において、学校経営について協議し、今後の10年を見据えた学校の方向性を見定めていく。また、学校運営協議会を公開し、透明性を担保するとともに、委員だけによる学校の運営でないことをアピールする。

◇インフォメーション機能の充実

・学校公開

土曜日授業、授業公開月間、道徳授業地区公開講座、学校行事等への出席率を向上させる

・保護者との連携

連絡を密に、誠意ある保護者対応、保護者会・三者面談等

・学校からの情報発信

「若木の丘」（学校便り）、「学年だより」、「保健だより」、「給食だより」等の発行、学校ホームページ、学校掲示板、SNS等の活用等

・受付、接遇の向上

分かりやすいインフォメーション、手入れの行き届いた施設・設備、

◇PTAや地域の活動への積極的参加

PTAとの連携、地域の行事への積極的参加

【学校経営の基盤となる方策】

◆教職員の資質・能力の向上

※書類の提出等、公務員として当たり前の業務をきちんとこなす。出勤簿も然り！

◇教員、事務、用務、各員のキャリアプラン

◇校内研修の推進による授業力向上

校内研究体制の整備、研究授業（全教員が最低1回は実施）による研鑽、浜中研の研究活動、都・区の研修への参加、自主研修等

◇小中連携教育の推進（地域の子供として、一人一人の成長を最大限保証する）

小中連携の日（6/3水と2/12～19）における取組

➡ 保護者の価値観を変革するための試みを！！

近隣の小学校と連携し、それぞれの学齢での育ちの保証、小学校で育てた力の一層の伸長
生徒会による広尾中学校の紹介

◆特別支援教育の推進

インクルーシブ教育への意識の変革が必要

◇校内体制の整備

特別支援教育コーディネーターを中心とした特別支援教育校内委員会の運営

◇特別な支援を要する生徒への学習支援

特別支援教室の活用、個別指導計画の作成、保護者・関係諸機関との連携等

◆生徒の安全確保と危機管理

◇事件・事故防止の徹底

春の交通安全旬間への協力、氷川地区総合防災訓練の実施に向けて（11/15）

安全指導の徹底、セーフティ教室（年2回）、来校者の確認、校内巡視、夜間・休日の警備等

◇事件・事故発生時の対応

緊急対応マニュアル、アレルギー対応マニュアルの徹底、教育委員会等との連携等

週

◆機動的な組織による円滑な学校運営の推進

◇職種・職層を超えての協働意識の徹底

分掌・学年での主幹・主任を中心とした組織的取組、
全教職員による共通理解・共通実践、報告・連絡・相談の徹底

◇主幹教諭・主任教諭の学校運営参画

毎日の主幹会議の運営と活用

学校経営会議（週1回）、主幹教諭・主任教諭からの積極的企画・立案等

◇事務主事・用務主事の学校経営参画

財務管理、施設管理等における積極的な企画・立案等
・校内環境の計画的な整備
・予算案の迅速な立案
・老朽化した備品の計画的な買い替え案の立案

◆生徒、保護者、地域から信頼される、魅力ある学校づくり

◇学校の透明性の確保

学校の説明責任を積極的に果たす

◇公務員としての自覚と資質の向上

サービスの厳正とサービス事故防止の徹底、個人情報保護の徹底、キャリアプランに基づいた自己研修等